

ふるさと再発見 第36回

Re:discovery Omihachiman

近江八幡偉人伝 ⑨

― 発想の転換と地域貢献

― 理知に富んだ八幡商人 ―

西川甚五郎重威

今回は、八幡を代表する商人・西川甚五郎家から、11代西川甚五郎重威（以下「11代甚五郎」）を紹介します。

現在も東京・日本橋に店を構える西川甚五郎家が、江戸に進出したのは元和元（1615）年、大坂夏の陣で豊臣家が滅亡した年になります。当初の主力商品は畳表でしたが、2代目甚五郎が行商の道中の山あいで見えた木々の美しさより作成したもえぎ色で赤縁の蚊帳が、「近江蚊帳」「八幡蚊帳」と名付けられ大ヒットし主力商品となりました。



西川甚五郎本店資料館（内部）

しかし、幕末から明治期になると、同じ近江の長浜などで作られる「浜蚊帳」など新興勢力に押され始めました。そこで、

近代化へ向けた改革を行い、発展につなげたのが、11代甚五郎です。明治に入ると、蚊帳については八幡町に蚊帳製織工場を新設し、畳表については大阪支店に続いて生産地の尾道（広島県）、大分、杵築（大分県）に支店を設けて仕入れの強化を図りました。さらに、蚊帳は夏季の需要であることから、同じく寝室で使われ、冬季に需要のあるふとんの取り扱いを東京・京都・大阪の大都市で始めました。これら経営強化と主力商品の転換により、西川家は新時代にも安定した経営を続けることができました。

11代甚五郎の活躍は、商売だけではなく地元への貢献もあげられます。明治15（1882）年八幡銀行（現・滋賀銀行）の開行や、海外での生糸の需要に合わせた八幡製糸株式会社の設立などをして地域産業の近代化に貢献しました。また、教育面でも大きく貢献しています。明治6（1873）年八幡東学校開校の際には、東京から教師を呼び寄せ、近代的な教育を施すことだけでなく、教科書の

選定・購入も自らが行いました。同9年、八幡東学校の新築が決定されると、11代甚五郎は自ら京阪地方の先進的な学校建築を視察し、擬洋風のモダンな校舎の建設に貢献しました。この建物は、現在も「白雲館」（市登録文化財）として日牟禮八幡宮鳥居前に往時の姿をとどめています。

11代甚五郎をはじめとする西川甚五郎家の活躍については、大杉町の西川甚五郎邸内に今年10月にオープンした西川甚五郎本店史料館（入館料無料）で詳しく紹介されています。



西川甚五郎本店資料館（外部）

🚨 新型コロナウイルス関連の情報は、市ホームページをご覧ください

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、本紙掲載の催しが急に中止や延期になる場合があります。開催の可否は事前に担当課または主催者へご確認ください。また、最新情報は、市のホームページ <https://www.city.omihachiman.lg.jp/> で随時発信しておりますので、ご確認をお願いします。

👤 人口と世帯 令和3年11月1日現在 ()は前月比

総数	82,157人	(-63)
男	40,376人	(-34)
女	41,781人	(-29)
世帯	34,732世帯	(-19)

※外国人住民(42か国・地域/1,603人)を含みます。